

# 景況レポート

(7月分・情報連絡員 80名)

## 製造業 DI 値が大幅に回復 ～8指標全てが前月を上回る～

【概況】7月の県内景況は、前年同月と比較して、景況が「好転」したとする向きが11.3%(前月調5.1%)、「悪化」が33.8%(同57.0%)で、業界全体のDI値は-22.5となり、前月調査と比較して29.4ポイントと大幅に上回った。

内訳として、製造業全体のDI値は-9.4で前月調査(-41.9)に比べ32.5ポイント上回った。また、非製造業全体は-31.3で前月調査(-58.3)と比較して27.0ポイント上回った。

地デジ対応の駆け込み需要と省エネ家電の販売が好調であるほか、サプライチェーンの復旧と被災地工場の再開にともない、鉄鋼・金属・機械関係が動き始めた。また、遅れていた公共工事も少しずつ発注になり、「(前年同月比で)悪化」から「不変」に移った票が多かったため、数字の上では震災前の状態まで回復している。しかし、消費の回復を実感する声は少なく、食料品の放射能汚染問題、原油高に伴う諸材料の高騰、円高による輸出不振や生産拠点の海外移転など、先行きは警戒が必要な状況にある。(回答数:80名 回答率:100%)

項目	業界の景況	売上高	販売価格	取引条件	資金繰り	雇用人員
業種	製造業	製造業	製造業	製造業	製造業	製造業
非製造業	非製造業	非製造業	非製造業	非製造業	非製造業	非製造業

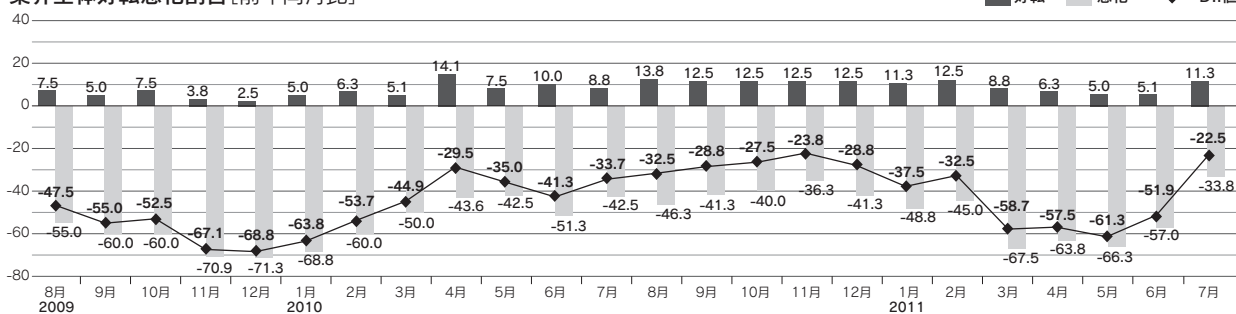
【凡例】

	快晴		晴れ		曇り		雨		雷雨
	30以上		10以上 30未満		△10以上 10未満		△30以上 △10未満		△30以下

【天気図の見方】  
前年同月比のDI値をもとに作成しています。

※DI値とは、Diffusion Index (ティフュージョン・インデックス) の略で、増加(好転)したとする企業割合から、減少(悪化)したとする企業割合を差し引いた値です。

業界全体好転悪化割合[前年同月比]



### 業界の声

- 乳製品製造** これまでの消費低迷に加え、稲わらを給与された肉牛の放射性物質検出の報道で、通常稲わらを与えない乳牛にも風評が及び、牛乳の消費が落ち込んでいる。
- 繊維工業** 衣料の売上は天候に左右されるため、今月は一喜一憂といったところである。このまま円高が進むと、海外生産に傾き、受注が減る可能性も出てくる。
- 外材** 大震災による緊急復旧の需要は落ち着き、本格的な復興対策が遅滞していることから、経済は減速し、製品需要は低調になっている。国産材にも安値傾向が強まり、山元の生産意欲も減退している。今後、冬場に向けた在庫確保が必要な時期となり、また、円高傾向が進んでいることから、丸太輸入の増加が見込まれる。
- 鉄鋼** 6月頃より、公共物件の耐震工事、また、県内各地で民間工事としてスーパーやショッピングセンター等の新築物件が動いてきている。被災地のアスファルトプラントや採石プラントの補修や改修を受注している企業もあり、工場の稼働率は上昇傾向にあるが、販売価格については採算ラインに届いておらず、収益状況は厳しいままである。
- 自動車販売** 7月の新車販売台数は、登録自動車が2,356台(前年同月比105.6%)、軽自動車が1,788台(同96.6%)で、合計4,144台(同101.5%)と11ヶ月ぶりに前年同月を上回った。
- 石油販売** ガソリン1ℓ当たり146円で前月比2円引き上げ、軽油1ℓ当たり128円で前月比1円引き上げ、配達灯油は18ℓで1,706円と前月比13円の引き下げとなった。市況は20日過ぎからいづらか回復が見られたが、夏期商戦に入ったものの、今一つ市場に活気がない。
- 商店街**
  - 【秋田市】大震災による自粛ムードは徐々に和らいできているが、消費は依然として買い控え感が根強く、また消費単価も低い。菓子製造販売店は、小麦粉、砂糖、包装資材等が値上がりし、価格転嫁も出来ず苦慮している。
  - 【大館市】7月17日第2回「ハチ公よさこい祭り」を開催し、昨年以上の来客があり好評であったが、普段の来街者は確実に減少しており、各店舗の売上は厳しい状況である。
  - 【能代市】北東北インターハイの男子バスケットボールの開催地であったことから、選手を含めてかなりの人が能代を訪れ、一部、売上増加となった組合員も見られた。
- 型枠工事** 県内全域で稼働率が上昇の傾向にある。学校等、官公庁発注の大型物件と民間の鉄骨造りの建築が堅調で昨年に比べ仕事量が多いように感じられる。業界内での再編が進みつつあり、現在は仕事と人員のバランスが保たれているが、これから仕事が増えたと確実に職人不足となる。